

## 駅の写真を撮ってみよう



第6回市民検討会では、参加者のみなさんが事前に撮影した駅周辺の写真をもとに、調布市内9駅の特徴を考えます。

### 撮影のポイント

#### ①駅に向かって歩いた時

#### ②駅から目的地に向かう時

- ・気になったところ
- ・その駅らしいと思ったところ
- ・駅の特徴だと思うところ を撮影してみましょう



## ご案内

### 第6回景観まちづくり市民検討会

次回の市民検討会では、参加者のみなさんに撮影していただいた写真をもとに、調布市内9駅の特徴を考えます。

**日時** 令和3年2月12日(金) 19:00～20:30頃

**場所** たづくり12階大会議場

**テーマ** 市内の駅の特徴を考えよう！

参加者を募集しています！興味のある方はご連絡ください♪



### ポスター展示

学生が作成したポスター、推し駅カードの展示を行っています。ぜひお立ち寄りください。

**日時** 令和2年12月2日(水)～28日(月)  
(17、18日を除く)

各日9時～17時(市役所閉庁日を除く)

**場所** 調布市役所2階 市民ロビー(市民課右奥)



たくさんの力作を作成していただきました！

10月30日に開催した市民検討会でもみなさん興味深く眺めていました



※新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえて、予定が変更になる場合があります。

調布市では、景観まちづくりについて、景観だよりでお知らせをしていきます。

発行：調布市都市整備部 都市計画課 景観係

Tel：042-481-7746 Fax：042-481-6800 Email：tikubetu@w2.city.chofu.tokyo.jp

## ちょうふ 景だより

令和2年12月10日発行

第51号



調布市内の駅の景観

## 『学生が見た調布の景観』

### 本号の目次

〔第5回市民検討会〕

- 調布市内の駅の景観
- 調布駅周辺の変化
- 駅の新しい見かたを  
考えてみよう
- 調布の駅ってこんな感じ？
- 駅の写真を撮ってみよう
- ご案内



第5回市民検討会では、景観アドバイザー石川氏、慶應義塾大学大学院学生による、調布市内9駅のフィールドワークの結果について発表していただきました。

石川氏による「駅とは何か?」「駅はどうあるべきか?」のレクチャーのほか、調布市内の駅の特徴や、学生が考えた駅のポスターなどを紹介していただきました。



## 石川 初 氏

慶應義塾大学大学院  
政策・メディア研究科教授  
調布市景観審議会委員  
景観アドバイザー

### 駅の景観が難しいのはなぜ?

#### よい駅の景観のモデルがない

「あるべき駅の姿」が考えにくいこと。  
時代や地域によって駅は多様であり、どれを見ても固有の事情があります。

#### 「駅」とは何か?

「駅」の概念は、定義が難しい。  
何を見て「駅の景観」として評価できるのか、何が駅を構成しているのか、多様な考え方があります。

### 駅の多様化とは?

#### デザイナーズ駅

有名なデザイナー、建築家などによってデザインされた駅。駅舎そのものが新たな地域のシンボルとなっている。



《例》  
高輪ゲートウェイ駅  
京都駅  
金沢駅 など

#### ランドマーク駅

駅の再整備などによって、地域の象徴として位置付け直された駅。創建当初は、デザイナーズ駅でもあったはず。



《例》  
東京駅 など

#### “溶け込む”駅

駅の商業施設やバスターミナルなどが複雑になり、どこからどこまでが『駅』かわからない、街に溶け込んだ駅。



《例》  
新宿駅  
渋谷駅 など

#### “見えない”駅

高架化、地下化によって、地上の人が歩く高さからは駅舎が消えてしまった駅。



《例》  
調布駅  
布田駅  
国領駅  
小田急線各駅 など

### 駅の『オン』風景

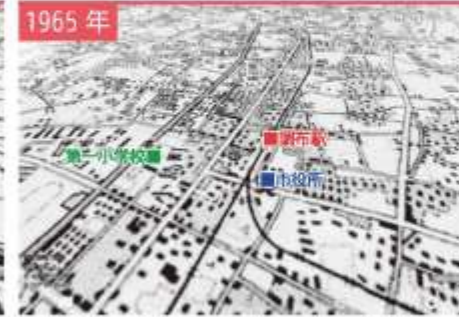
### 駅の『オフ』風景

駅や周辺の建物が複雑になったり、地上から消えています。  
駅が変わりつつあるのに、駅を街のランドマークとして捉えようとするのが、駅の景観を考えるのが難しい理由のひとつかもしれません。

# 調布駅周辺の変化



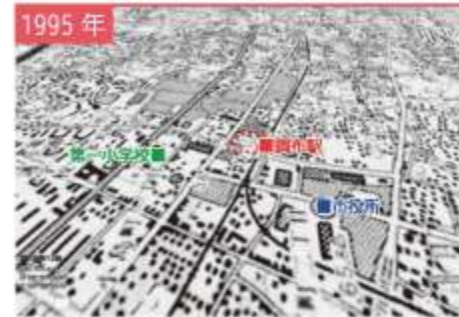
1950年  
現在の調布駅の南側に第一小学校、南側に市役所(旧役場)がありました。



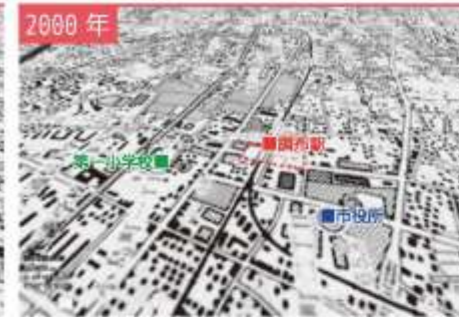
1965年  
駅が現在の位置に移動し、第一小学校、市役所の位置が変わりました。



1985年  
市役所が現在の位置に移動しましたが、駅前にロータリーはありません。



1995年  
駅の北側にパルコができ、ロータリーが完成しました。



2000年  
調布駅から甲州街道までの道路が開通し、駅の南側にロータリーが完成しました。



2020年  
京王線が地下化し、100年振りに駅の南北が開通しました。

## 駅の新しい見かたを考えてみよう

### 乗り換える場所

駅は電車に乗る・降りるだけでなく、電車から電車やバス、車、徒歩など、『乗り換え』を行う場所でもあります。



### 人が集まる場所

駅に留まる人が増えると、駅は人が集まって時間を過ごす場所となり、お店が増えたり、バスのロータリーができたりします。



### 留まる場所

乗り換える時間があいたり、待ち時間ができたりすると、駅は『留まる』場所にもなります。



### 出会いと交歓の場所

人が集まる、色々なものがあることによってできることも、駅の役割のひとつです。新たな『出会い』や『交歓』の場所としての駅の周辺が賑わっていくかもしれません。



## 学生が見た調布の景観

学生のみなさんが、調布市内の駅のポスターを考えてくれました。たくさんの力作の中から、抜粋してご紹介します。

調布駅



▲調布駅が昔、布に所縁のある土地であったという話を聞いて、布のテクスチャを使ったデザインを考えました。落ち着きながらも、遊び心がありそうな調布駅を、糸やモチーフで表現しました。(張伊琳)

仙川駅



私が初めて仙川という街を知ったのは、このラーメン屋があったためでした。あえてモノクロにすることでシンボルである黄色を排し、そこに集う人々の独特の高揚感や店のある種の魔力といったものを強調するという意図です。多くの店舗がそうであるように、この仙川店もまた地元のみならず遠方からも絶えずファンが通う名店です。仙川にとって外せないスポットではないでしょうか。(長久 祐太郎)

国領駅



◀国領駅を訪れたことがありませんが、きっと国領君がいたら、真面目で利発だけれどちょっと天然な人だろうと勝手に想像し、このキャッチコピーを考案しました。また、国領駅のイメージから木の長方形を並べ、藤の花をあしらったロゴも作成しました。(原田 馨子)

柴崎駅



柴崎駅を訪れたことはなく、近くに住んでいる友達に聞いたことを元に作成しました。「歩いていると突然駅があらわれる」と聞き、住宅に紛れていて一瞬駅がどこにあるかわからないという面白さをポスターで表現してみました。(羽賀 優希)

飛田給駅



▲一度も足を運んだことがないながらも、まだ見ぬ飛田給駅を沢山妄想してみました。その中でじっくり考えたのが、「ちょっと良い靴下を履くようなさりげなく品のあるお洒落」というイメージです。赤い靴下に駅周辺の地図をこっそり忍び込ませました。(張伊琳)

布田駅



▲私は布田駅に一度も訪れた事はありません。私を含めた多くの研究室の学生は、布田という地名に「柔らかさ」「長閑さ」といったイメージを抱きました。そこで、布田の地名の由来を勝手に想像したエピソードを考え、イメージをそのままポスターのデザインにしました。(佐藤 歩真)

京王多摩川駅



当駅は二子玉川駅や和泉多摩川駅などと同じ「多摩川シリーズ」の一つとして語ることができます。崖線から多摩川に突き出した高架駅は、まるで「展望テラス」のようです。普段行かないホームの端から覗く風景は京王多摩川の隠れた魅力です。(張伊琳)

つつじヶ丘駅



▲このポスターは、「つつじヶ丘」という名前のイメージだけをもとに作成しました。可愛い、のどか、という印象を元に、どこか KEIO カラーから抜け出せない真面目でシンプルなつつじヶ丘感を残しました。駅名の横の矢印は、つつじの花をイメージして作られています。(生越 結乙)

## 学生が見た調布の景観

調布市内9駅の歴史や地域性、駅を取り巻く景観について知るため、石川氏 & 学生のみなさんが駅のフィールドワークを行いました。

フィールドワークでは、京王線を利用して全ての駅を回り、写真やスケッチで景観を採集し、後日意見交換や駅の再訪を行いました。



# 押し駅カード

学生のみなさんが、それぞれの好きな駅、想い入れのある駅を紹介した『押し駅』カードを作りました。



# 調布の駅ってこんな感じ？

駅名は地名に関連していることが多く、駅が地域の代表として認識されている理由のひとつになっています。

各駅にキャッチコピーをつけてみると、地域の特徴や新しい駅のすがたが見えてくるかもしれません。また、駅名から感じるイメージで、学生がキャラクターを作ってくれました。

